

令和元年度 第2回北海道立釧路芸術館運営協議会議事録

日 時 令和2年2月5日(水) 午後2時00分～午後3時40分
場 所 北海道立釧路芸術館 アートホール

○出席委員 10名

○館出席者 7名

○釧路芸術館共同事業体運営委員会

運営委員会 委員長代理 1名、運営委員 1名

【議 事】(1) 令和元年度事業報告

- ア 展覧会事業
- イ 芸術・教育普及事業
- ウ 施設の利用状況
- エ 作品収集状況

(2) 令和2年度事業計画

- ア 展覧会概要及びスケジュール
- イ 芸術・教育普及事業・施設維持管理業務

(3) その他

1. 開 会

館長より、令和元年度第2回北海道立釧路芸術館運営協議会の開催する旨の挨拶。

2. 挨拶

運営委員会 委員長代理より、釧路芸術館の簡単な運営状況の説明の後、本協議会
でのご意見を来年度の運営に反映させていきたい旨の挨拶。

3. 協議会成立について

館長より、令和元年度第2回北海道立釧路芸術館運営協議会の開催にあたり、委員
数14名中10名が出席となり、運営協議会規則第7条2項により成立する旨を宣言
し、議事に入った。

4. 議 事

(1) 令和元年度 事業報告

館長より、展覧会事業や来館者のアンケート結果について報告。

次に、教育・普及及び自主事業の実施状況について説明。冬休み期間中にはフリーアートルームにおいて、恒例の「キッズアトリエ」の他、「カプラであそぼう」「“ひとがた”何人できるかな」と子ども向けイベントを強化した。

Wi-fi 環境やキャッシュレス決済の整備といった管理運営面での取組みも説明された。また、学芸主幹からは、池田良二氏の作品が受贈候補にあがっており、本協議会終了後の選定会議で受贈が決定されるとの報告が行われた。

委員 「片岡球子と難波田龍起展」を拝見し、良い展示だと思いましたが、観覧者が少ないです。芸術館としてはどのように分析していますか。

館長 目標が 4,500 人なのですが、12 月下旬から 1 月上旬にかけては例年なら観覧者が増える時期にも関わらず、伸び悩んだのが現状です。過去には釧路市立美術館でも開催された経緯がありますので、「前に見たから、今回はいいか」と思われた方が多かったのかもしれない。

委員 外国人の観覧者が急激に減っているようですが、そちらも分析されていますか。

館長 外国の方については、ロビーには入ってきているのですが、有料と聞いて帰ってしまうという例が結構あったのが一つ。それからもう一つは「嶋崎誠展」が終わって「片岡球子と難波田龍起展」が始まるまでに 1 ヶ月期間が開いてしまったので、うまくインバウンドを取り込めなかったのではと考えています。

委員 最近、プロジェクターを使用するイベントが多くなってきました。皆さんの目の前にも、それから私たちが今おりますホール天井にも設置してあるプロジェクターですが、以前ここをお借りしたときにプロジェクターも借りようとしたところ、「ホールの備品ではないのでお貸しできない」と言われました。プロジェクターはなかなか個人で持っていることは少ないので、せっかく設備としてあるのであれば、貸し出してもいいのではと思います。

館長 プロジェクターについてですが、貸館利用される方には、持ち込んで頂くようお願いしております。今日の前にあります方は基本的には事業用で、天井に設置している方も指定管理者が所有している物なので、事業用となっております。今後貸館利用者への開放は、内部で検討していきますが、現在のところはお断りしている次第であります。

委員 もう一つ要望させていただきますが、3月1日一斉に次年度1年間の利用受付をするという特殊な方法をとられています。ホールの利用状況については、ホームページ

で確認できる状態になっていますが、今日見てみると当月を入れて2か月しか表示されていません。なんとか3・4ヶ月先まで閲覧できるようにはなりませんか。

館長 館主催の展覧会や教育普及事業との兼ね合いがあり、また、館周辺で開催されるイベントも考慮して、貸館可能か判断しております。次年度1年間の利用受付を行うという長年続けられてきた現在の方式を変更するとなると、利用者に周知漏れがないようにするにはどうすればよいかという懸念を払拭してからでなければならず、難しい問題でございます。

ホームページに掲載している利用状況につきましては、貸出できる日程がわかり次第、順次更新していきます。

委員 私が申し上げたいのは、3月1日に一斉受付をするという現在の方式の変更を要望しているのではなく、ホームページで利用状況を閲覧できる月数を増やしてほしいということです。

館長 現在、4月以降はまだ公表できない段階ですので、それで3月の利用状況までしか閲覧できないのです。

委員 承知しました。

会長 夏に行われた「球体のパレット」展は現代美術のイベントで、若い方たちが興味を持って来るのではないかと思っていたところ、残念ながら観覧者数目標には達しなかったという結果が出ております。

先程お話しにもありましたように、帯広・函館・札幌でも巡回展が開催されたということですが、各館での反響がおわかりになれば、教えて頂きたいです。

学芸主幹 当館の前に開催された帯広美術館では、4,000人を超えたと聞いております。函館美術館の方は把握しておりませんが、同程度だと思います。札幌芸術の森美術館は当初2万人を目標としていたと記憶していますが、相応の来館者数になったのではないのでしょうか。

現代美術は比較的若い層が関心を持って見に来て下さることがありまして、札幌は人口が多いので、その分若い人の数も多く、底上げにつながったのではと思います。結果は別として、各館若年層向けに力を入れてPRしたのではと思います。

当館で言いますと、男子中学生の方が展覧会に感動して、母親を連れて何度も見に来て下さったりもしまして、非常にありがたく思いました。まだまだそういった人達にも届くように色々工夫していかなければと感じております。

委員 令和元年度の芸術・教育普及・自主事業について、年度終わりにあたる今の段階では、どのように評価されていますか。

館長 自主事業につきましては、クリスマスコンサートと、アテンダントスタッフが展覧会の解説をする一点トークを実施しました。

それから、教育普及事業では、展覧会関連事業が大きなウェイトを占めています。また、市内の学校さんから団体で観覧しにいらっしゃった時に学芸員が解説をする場合も、教育普及事業と位置付けております。一昨年までは冬休みに3年生全員が観覧することになっている学校もありましたが、それがなくなってしまったりしていますので、視点を変えていかなければならないと考えております。

先日新聞を読みましたら、釧路市の人口が前年比で2千数百人も減っているという記事がありまして、目標数は上がり人口は減り続ける中で、どのように教育普及事業を行っていくかということで、先程のご案内の中でもお話ししました通り、アートカードを活用した授業を学校でして頂けないかですとか、出前講座も学芸員の協力を得ながらジャンルを若干絞りつつも、子供たちがより楽しめる内容にするなど、環境作りはしています。ですが、こちらから積極的にアプローチはできません。学校からの要望で行うというのが実態でございます。そんな中でも、なんとか盛り上げながら一人でも多く参加者を増やしていく努力は必要であると考えています。

学芸主幹 私の方から少し補足させていただきます。7ページの6番、ワークショップという項目がありまして、その3つ目に「道立芸術館×市立美術館 夏のワークショップめぐり 釧路マップをつくろう！2019」という催しがございます。こちらは現在道教委が進めている「アートギャラリー北海道」という道内の美術館や美術関連施設が連携してお互いに盛り上げていこうという取り組みの中の一環として行いました。教職員弘済会からの助成金を得まして、芸術館と市立美術館両方の会場を回って絵を描くのを楽しんでもらおうというものでした。

ところが、当館と市立美術館の間は15分程ですけれども、出世坂を上って歩いていくというモチベーションをかき立てるのは難しかったと考えております。

来年度もアートギャラリー北海道は継続しますので、今年度の反省を踏まえながら事業を行っていきたいと思います。

それ以外で言いますと、8ページの12.その他のところに、「球体のパレット展 ハンス・オブ・デ・ベーク追加作品上映会」というのがあります。こちらは、本展に映像作品を出品しました、現在国際的に評価の高い作家です。タイトルの中で「追加」となっていますのは、当初は上映する予定がなかったのですが、本展の展示作品全体の所有者が、会場の雰囲気が大変気に入ってくださって、せっかくだからこの作品も上映したいと言ってくださりまして、夜間開館の時間を活用して特別

に上映するという試みを行いました。参加人数は少なかったのですが、この後の巡回先会場でも上映しようというきっかけになりました。

委員 先程お話しに上がりました貸館利用ですが、アートホールはおよそ 7300 名となっていて、これは回数にすると 2～30 回でしょうか。少し疑問に感じました。

館長 件数までは今すぐに申し上げられませんが、9～12 月の利用が健闘しております。

委員 部外の方との連携はどうされていますか。

館長 アートホールの 200 人というキャパシティは皆さんに周知されて、非常に使いやすいというお声を頂いております。

3 月の一斉受付では、一つの日程に十数件希望が殺到することがあり、潜在的な需要もあるのではと感じています。ただいかんせん、開館から 21 年が経過し、照明や音響設備も老朽化しております。改修がなかなか進まない状態で貸館を続けていくというのは、不安な面があります。

委員 ワークショップなど、美術館の活動とリンクしてお互いが盛り上がるイベントをもっと検討して頂ければと思います。

館長 色々な団体との連携を検討していきたいと考えております。

会長 先程、アートカードのお話がありました。こうした会議の時に、実物があれば、委員の皆さんもわかりやすいかと思います。道立の美術館施設の学芸員の方々が中心となって、所蔵作品をベースとしてカルタのようなカードを作って、鑑賞活動の教材にしようという取り組みです。釧路美術館にもたくさんストックがあり、学校を始め様々な団体に貸出することができる体制になっています。

多くの方に美術作品に親しむ機会を持ってもらうために、広く活用を呼び掛けて頂きたいと思います。

(2) 令和 2 年度 事業計画

学芸主幹より、展示室やフリーアートルームで開催する展覧会事業について説明。そのうち「没後 20 年 毛綱毅曠の建築脳」展については、地域の課題を掘り起こすきっかけとなるような展覧会を目指すとともに、会期が夏休みと重なるので、親子連れが楽しめる工夫を凝らしていきたいと紹介。

委員 5 月の池田良二さんの展覧会はどのようなことをするんですか。

学芸主幹 本日この後に池田さんの作品収蔵について判断する会議を開きまして、そこで承認されれば、新収蔵展示ということでお客様にお披露目することとなります。

会長 一つ気になったのが、来年度に関しては絵画や彫刻といったファインアート系の展覧会が少ないと感じました。その辺どのようにお考えでしょうか。

学芸主幹 おっしゃられる通りの部分がございますが、北海道・鉄道開業 140 年の展覧会が荒川好夫の写真と栗谷川健一のポスターの展示ということで、ポスターはデザインの範疇なのですけれど、彼の作品が非常に絵画的でありまして、色使いや構図、それにイメージ自体が正に一枚の美しい絵というようなことになっております。

本人自身も絵を描いてそれをポスターにするということをお大変強く意識しておりまして、ポスターですからいわゆるポスターカラーを使って書いていたわけなのですが、それにアラビアゴムを混ぜて盛り上がりをつけ、油絵のように見せる手法をとっていたというところがございます。

また、毛綱毅曠につきましても、建築家ということで様々な建築の図面や資料を作成していたわけですが、スケッチブックも何冊か遺してしまっていて、その中には建築には直接ならないような SF チックな都市のイメージですとか、色々彼の幻想的な部分が絵としてイメージとして出ているものがありまして、それらを少し洗練させたような版画作品も展示する予定です。

それから、ビーズのはなやぎ・刺繍の美については、工芸というわけですけれども、先住民族がどのような考えで、どのようなことを受け継ぎながら作品を作っていたかという深いところや、そして美しさというものに迫っていくという展覧会を目指しております。

今年度は偶然、絵画や彫刻の展覧会は少なくなりますが、その他の展覧会においても、そうしたジャンルのファンの方もご満足いただけるよう工夫したいと思っております。

委員 「毛綱毅曠の建築脳」が 10 月 11 日まで開催で、釧路市芸術祭は 10 月 9 日から 11 月 3 日頃まで開催となります。そして、「ビーズのはなやぎ・刺繍の美」が 10 月 31 日からというふうになってしまっていて、偶然なのでしょうが、釧路市の 42 団体がアートで非常に盛り上がる時期に芸術館の展示がちょうどお休みだというのは、残念です。

令和 2 年度については仕方ないですが、今後頭の片隅に置いて頂ければと思います。相乗効果でお互い盛り上げていきたいと考えております。

もう一点、前回の運営協議会でもお話しが出ていた駐車場の件ですが、錦町駐車場が特別展観覧の場合 1 時間無料となっていて、これを 90 分もしくは 2 時間に延長できないか掛け合ってみてはどうでしょうか。12 月の市議会定例会に合わせて、文化団体連絡協議会からも政策要望を出させて頂いているのですが釧路

市の方からアプローチはありますでしょうか。

館長 前回の運営協議会でお話しさせていただきました通り、私どもの方からアプローチはしておりますけれど、文化団体からこういう要望がありましたという連絡も含め、市の方からのアプローチは現段階でございません。

委員 2月の市議会定例会では私どもの要望に対する回答が来る予定ですので、その辺りをみて、バックアップしていきたいと思います。

実際、錦町駐車場から歩くと250mで5分かかりますし、5階くらいにとめると10分近くかかります。そうすると、展覧会を見る時間が40分くらいしかなくなりますので、せっかくの展示がゆとりを持って見られないです。それも踏まえて、引き続き要望していきたいと考えております。

館長 芸術館としても、釧路市に対して引き続き要望を出していきます。

会長 芸術館の駐車場は開館時から8台分しかスペースがなく、長い間懸案事項になっています。

芸術館だけではなく様々な関係団体が市の方に要望を出して頂けると、援護射撃になりますし、市からの回答があるということであれば、それを基にまた要望して頂けると思いますので、よろしくをお願いします。

委員 私は根室から来ていまして、根室には美術館がありませんので、常設展を見られる機会はないですけれど、広く芸術という括りで言えば、文化会館で楽器の展示があります。愛好家の方たちの話の中で、何十年前のヴィンテージの楽器を持っているんだ、それなら見てみたいなというところから始まって、数年前より年1回展示を行う形になりまして、非常に楽しい集いの場にもなっています。

楽器に限らず個人がいわゆる「お宝」という物をお持ちであるケースは多いのではないかと思います。価値はあるのになかなか紹介する機会がない物を、管理の面で難しさはあるでしょうが、何か工夫して広く見て頂くことはできないかと考えています。持っている方も皆さんに見て評価して頂けたら、非常に嬉しいと思います。

釧路は根室より人口が多いですので、潜在的な可能性も大きいのではないのでしょうか。

学芸主幹 おっしゃる通り、個人がお持ちで色々興味深い物がございまして、当館では一昨年に個人所蔵の油絵や日本画をご紹介する展覧会を「我が家の名品展」というタイトルで開催して好評を得ましたので、引き続きアンテナを張って広く情報を集めて

いきたいと考えております。

- 会長 やはり身近なものが展示されると、見る方の興味も増しますので、こういう企画はどうですかと言いやすい態勢が出来ればよいと思っております。
- 来年度も観光客の方だけでなく地元の方にたくさん見に来て頂きたいと考えております。

(3) その他

- 会長 来年度のことにつきましてはこれでよろしいでしょうか。それでは、議事の3番目「その他」について、今年度のことでも来年度のことでもよろしいですが何かありますでしょうか。

- 委員 先程館長からアートホールの設備老朽化の話がありましたが、それ以外の展示や収蔵に関わる場所でも老朽化によって何か不具合は起きているのでしょうか。

- 館長 空調が24時間一定の温湿度を保っている関係で、その部分でもかなり痛んできているのが実態であります。

 いかにせん、1箇所直すといっても相当な金額になりますので、道教委の方にも緊急度等で区分して要望は出しています。また、管理しながら、我々が出来る範囲で維持経費を活用した修繕は行っている状況です。ただ、20年以上経過して部品供給がほとんどストップしているものですから、中古で何とか探してきて応急処置をすることもあります。

 それから、展示室の照明にしても、電源の入り切りはコンピュータを介して行っている関係で、基盤が故障してしまったらもう替えは無い可能性が高いという不安が付きまっています。

- 委員 一昨年、札幌芸術の森美術館で会期中に突然空調が故障するという事態が起きて、通常ですと1ヶ月くらい展覧会が出来なくなるわけですが、幸運なことに人づてで別の所に回す予定だった部品を確保してもらって、最終的に2日くらい休館するだけで済んだということです。

 道立近代美術館も開館から40年以上経って、空調も途中で一度交換はしていますが、いつ故障するかわからない不安という物があります。やはり予算の問題で簡単にはいかないということがあります。貴重な作品をお借りしていて、そこで空調が壊れると大変な事態になりますので、道の方にもこういう状況ですというのをお伝えした方が良いのではと考えます

館長 道教委には中期計画等で、修繕や整備を含めた要望を毎年出しております。それと、釧路芸術館共同事業体の一員である NTT ファシリティーズ北海道が、例えばボイラーが1台停止してしまった場合に、ここの部分は空調を止める、ここからのお湯はこちらに回すといった緊急対応策を用意し、最悪の場合は展示室を優先する管理を行うことにしています。

会長 20年以上経ってかなり老朽化が目立っていますので、道教委に対する要望は継続していくことになると思います。

委員 皆さんご存知かと思いますが、津波の堆積物の調査によってこれまで想定されていたよりもかなり大きな津波が来るのではないかという発表を、2年ほど前に政府の地震調査委員会が行いましたけれども、釧路芸術館としては作品をどのようにして守るかという点についてお考えでしょうか。

学芸主幹 2011年の東日本大震災の時には、そこのフィッシャーマンズワープ MOO まで水が来て、地下がだめになったという話は聞いております。芸術館までは来なかったということですが、率直に申しますと、通常行っている作品保護のための色々な事以上の、巨大な津波等を想定した対策というのはまだ行っていないというのが現状であります。

この問題は道立館同士が知恵を出し合いながら対策を練っていくしかないと思いますけれども、特に釧路芸術館は川に近いところにあり、一番深刻な問題となりますので、これからもっと考えていかなければならないと思います。

館長 昨年大雨で川崎市民ミュージアムが浸水して、地下に保管されていた蔵書数十万冊が被害にあったとのこと。大雨に関しては当館で想定して対策できますが、こと大津波となると、保安要員で作品を2階に上げましようと言っても、なかなかそこまでの人数もないですし、高価な作品だけに絞ったとして、時間との戦いでもあると思います。そういう面では、管理する上で相当なジレンマを抱えていて、現状は来館者の避難誘導で手一杯で、あとは施錠して入ってくる水が少ないことを祈るしかないのではと思います。

委員 大津波に関して、今の釧路市の想定では警報発報からおおよそ30分で襲来するようになっていまして、運べるものは高所に運ぶなり考えてはどうかと思いますが、もちろんお金も人手もかかることです。一方で貴重な釧路の、道の財産でありますから、何らかの方法を考えていかなければならないと思います。

学芸主幹 おっしゃる通りだと思います。これができないあれができないというのはあまり言っても仕方がないですが、当館には一番の代表作の日本画の作品がござい

まして、こちらは力持ちの日本通運さんが4人いなければ持ち運びできないので、2階に運び上げるという方法ではほとんど救えないと思います。

ここにこの芸術館があること自体が問われてくることになりましたが、それ以外の方法で何をすべきかという危機管理は行っていかなければならないと思います。

会長 なかなかすぐには解決できない問題です。一昨年北海道全体がブラックアウトする事態になりまして、想定を超えた災害が起こりうるというのを我々体験しているわけですので、それに向けた対策も必要になってきます。(道立)近代美術館の方は不測の事態へのマニュアルですとか対応は考えられていますか。

委員 ブラックアウトの時は夜間でしたが、空調が止まってしまったということで、まず復旧するまでに温湿度が変化しないよう完全に密閉した状態を保ったり、安全を確保したりということを行いました。非常電源があるわけではないのですが、幸いなことに地震があったその日の午後には電気が復旧しました。札幌市内では恐らく一番早かったので、あまり大事にはなりませんでした。

美術館や博物館で組織する団体でも、防災については大きな課題になっています。先日「日曜美術館」という番組で、災害に遭った美術品をどう守るかという問題を取り上げていましたけれど、その中で九州国立博物館の館長さんが、「完全に防ぐのは難しいけれど、減災つまり被害をなるべく少なくする、被害に遭った時にいかに作品を救出するか」と話されていたので、できる範囲でやることはやるし、色々な館が連携して災害に遭った時はなるべく速やかに救出を行えるような態勢づくりが大事です。道立美術館は6館あって全部でおよそ30名の学芸員がおりますので、被害に遭った時のレスキュー態勢を全体で考えていかなければならないと感じています。

委員 今年は毛綱毅曠さんの展覧会があり、ちょうど大型客船の寄港時期と重なりますので、バス会社にツアーを企画して頂き、毛綱さんにゆかりのある市内各所を芸術館も含めて回ってもらうようにすると、釧路も潤いますし、芸術館も観覧者数が上がるという想定が出来ます。その時に建築士会に協力を仰いで説明するスタッフがツアーに同行する態勢をとると良いのではと考えていました。

会長 市内には毛綱さんが設計したたくさんの建築物がありますし、出身地でもありますので、釧路市や市教委にも是非協力してもらいたいと思います。

さて、他にご意見はございますでしょうか。それでは、釧路芸術館共同事業体の方から、現状についてや今後の課題について、また芸術館をどうバックアップしていくかということをお話し頂けますでしょうか。

委員長代理 我々としては昨年ホームページのリニューアルや観覧料支払いのキャッシュレス

化対応といった対外的にPRできる取り組みを行ってきたという自負はあります。逆にそれがまだ来館者数に結びついているかという点、正直明らかにはなっていないのですが、今後効果がはっきりしてくるものと認識しています。

本日の委員の皆様から、プロジェクターのことですとか、根室での楽器の展示についてなどお聞きしましたので、来館者の方や利用者の方個人個人に向けた取り組みをしていかなければならないと感じさせて頂きました。

その一方で、目標を超える人数を集客するというのはなかなか難しいことで、札幌でもホテルを一軒一軒回ってパンフレットを置いたり、札幌駅の観光案内所といった人が集まる場所でPRし直したりしているところでございます。そうしたことを積み重ね来館者の方1人1人を見ながら、来年度の展覧会事業、また館の運営に携わっていきたいと思っているところでございます。

会長 それでは、よろしいでしょうか。皆様のご意見も出尽くしたと判断いたしますので、全ての議事を終了したということで、進行を事務局にお返しします。

館長より一部委員の任期満了について説明があった後、閉会の挨拶に続き、北海道立釧路芸術館令和元年度第2回運営協議会は終了となった。